

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報処理システム科(2年制)	夜・通信	2580 時間	80×2 =160 時間	
	デジタルクリエイター科(2年制)	夜・通信	4800 時間	80×2 =160 時間	
	Webスペシャリスト科(4年制)	夜・通信	4980 時間	80×4 =320 時間	
	ITスペシャリスト科(1年制)	夜・通信	1020 時間	80×1 =80 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバスに実務経験の有無を記載し、ホームページにて公表する https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表する https://kamei.ac.jp/report.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現職) NPO 法人東京オペラ協会 顧問 (平成 29 年 1 月～)	昭和 58 年 9 月 26 日～ 令和 7 年 5 月 31 日～ 令和 11 年度 定時評議員 会の終結の ときまで	渉外・調整
非常勤	(現職) トナミ電工株式会社 取締役社長 (平成 20 年 5 月 1 日～)	令和 5 年 9 月 26 日～ 令和 7 年 5 月 31 日～ 令和 11 年度 定時評議員 会の終結の ときまで	経営(産業界の動向 把握)・研修
非常勤	(前職) 日本理工情報専門学校 (昭和 53 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日) 「令和 7 年 5 月 31 日 時点では無職」	令和 7 年 5 月 31 日～ 令和 11 年度 定時評議員 会の終結の ときまで	教育・設備
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。公表時期は、毎年6月としている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページにて公表 https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html</p>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>シラバスにより、各試験、レポート、平常点(学習の意欲)の割合などを記載し、それにのっとり、各教員より成績評価をいただく。 また複数の教員が授業を行う場合は、全ての成績を合算し、平均をとって最終的な成績評価としている。</p>	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。

- ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。
- ② 評価は、秀 (100点～90点) 優 (89点～80点)・良 (79～70点)・可 (69～60点)・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。
- ③ 客観的評価 GPA 制度について

GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。
成績評価基準と GP

成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。

GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$

*小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む

客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公表 https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

日本コンピュータ専門学校^の教育目標
実践的専門技術教育とともに、人間形成の一部を担いアイデンティティの確立に寄与するという理念のもと、実践力に富み、広い視野を持った、真に良識ある技術者を育成する。

学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。

1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している
2. 専門的な知識を修得している
3. 専門的な技能を修得している
4. 豊かな教養と広い見識を修得している

卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページにて公表 https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html
------------------	---

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>情報処理システム科 Bコース (昼間2年)</p> <p>高度情報化社会を根幹から支えるコンピュータシステムの開発エンジニアと気象予報士、ビジネススキルを育成するために専門的かつ実践的な授業を行い、即戦力として働ける人材を育成することを目的とする。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 専門的な知識を修得している 3. 専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>ホームページにて公表</p> <p>https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html</p>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>情報処理システム科 Aコース (昼間2年)</p> <p>高度情報化社会を根幹から支えるコンピュータシステムの開発エンジニアを育成するために専門的かつ実践的な授業を行い、即戦力として働ける人材を育成することを目的とする。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 専門的な知識を修得している 3. 専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>ホームページにて公表</p> <p>https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html</p>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>情報処理システム科 Bコース (昼間2年)</p> <p>高度情報化社会を根幹から支えるコンピュータシステムの開発エンジニアと気象予報士、ビジネススキルを育成するために専門的かつ実践的な授業を行い、即戦力として働ける人材を育成することを目的とする。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 専門的な知識を修得している 3. 専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>ホームページにて公表</p> <p>https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html</p>
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>デジタルクリエイター科 (昼間2年)</p> <p>実社会で求められるクリエイターやタレントとしてデビューできるエンターテイナーを育成するために専門的かつ実践的な授業を行い、即戦力として仕事に従事できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 専門的な知識を修得している 3. 専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>ホームページにて公表</p> <p>https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html</p>

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
Webスペシャリスト科 (昼間4年)	
2年課程よりさらに高度で実践的なコンピュータシステムの開発エンジニアとクリエイターを育成するために専門的かつ実践的な授業を行い、即戦力として働ける人材を育成することを目的とする。	
学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 専門的な知識を修得している 3. 専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページにて公表 https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
ITスペシャリスト科 (昼間1年)	
1年間でコンピュータシステムの開発エンジニア、クリエイター、ITビジネスに関する育成するために専門的かつ実践的な授業を行い、即戦力として働ける人材を育成することを目的とする。また、留学生は、ITと日本語を勉強し、ステップアップを目的とする。	
学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している 2. 専門的な知識を修得している 3. 専門的な技能を修得している 4. 豊かな教養と広い見識を修得している 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページにて公表 https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

I Tビジネス科 (夜間1年)

社会人を対象とし、情報処理技術者試験 (国試) やベンダー資格取得を目指し、I Tエンジニアとしてステップできる人材を育成することを目的とする。

学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。

1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している
2. 専門的な知識を修得している
3. 専門的な技能を修得している
4. 豊かな教養と広い見識を修得している

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページにて公表

https://www.ncp.ac.jp/admission/koutoushien_date.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://kamei.ac.jp/report.html
収支計算書又は損益計算書	https://kamei.ac.jp/report.html
財産目録	https://kamei.ac.jp/report.html
事業報告書	https://kamei.ac.jp/report.html
監事による監査報告（書）	https://kamei.ac.jp/report.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報処理システム科	平成7年1月23日 文部科学大臣告示第7号	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1920 単位時間	980 単位時間	420 単位時間	1180 単位時間	— 単位時間
			2580 単位時間			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人	69人	58人	5人	13人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。 シラバスに従った授業方法で年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP

成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。

GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$

* 小数点第 2 位下四捨五入、* 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む

卒業・進級の認定基準

(概要)

設定科目の成績評価が 60 点以上であり、出席時数が総授業時数の 3 / 4 以上、各科目の出席時数が総授業時数の 2 / 3 以上で進級または、卒業することができる。

学修支援等

(概要)

進路・就職指導、生活指導、学習指導を行っており、問題があれば個人面談を行い、対処している。場合によっては、保護者を交えて面談も行う。

経済的な支援は、学内・学外の奨学金制度を利用している。

健康管理については、全学生の健康診断を実施している。また、体調不良の学生については、病院へ行くように指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15 人 (100%)	4 人 (26.7%)	9 人 (60%)	2 人 (13.3%)

(主な就職、業界等)

情報処理系企業、コンピュータサービス系企業、大学進学等

(就職指導内容)

個人面談を行い希望する業種・職種とその他の条件を聞き求人を紹介している。

学内に企業を呼び企業説明会を実施している。

合同企業説明会に参加を勧めており、求めている職種を直接聞いて企業選択、職種選択の参考にするように指導している。

インターネットの求人サイトを利用するように勧めている。

1 年次から企業の人事の方に来校いただき就職試験 (筆記試験、面接試験) に必要な知識と技術、マナーなどについて講演を行っていただいている。

(主な学修成果 (資格・検定等))

基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ベンダー資格

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47 人	4 人	8.5%
(中途退学の主な理由) 経済的理由、進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席者には、本人と連絡を取り、欠席理由を確認し、欠席が続く場合は、面接等を実施し、学習意識向上させるために目標設定などの指導をしている。 出席状況がよくない学生は、保護者に連絡し報告と相談をしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	デジタルクリエイター科	平成16年2月17日 文部科学大臣告示第23号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1920 単位時間	1240 単位時間	620 単位時間	2940 単位時間		
			4800 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	26人	23人	4人	10人	14人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																		
<p>（概要）</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。シラバスに従った授業方法で年間授業計画を立てている。</p>																		
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。</p>																		

学修支援等
(概要) 進路・就職指導、生活指導、学習指導を行っており、問題があれば個人面談を行い、対処している。場合によっては、保護者を交えて面談も行う。 経済的な支援は、学内・学外の奨学金制度を利用している。 健康管理については、全学生の健康診断を実施している。また、体調不良の学生については、病院へ行くように指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	3人 (37.5%)	4人 (50%)	1人 (12.5%)
(主な就職、業界等) IT系企業、Web制作会社、アニメーション制作会社、大学進学等			
(就職指導内容) 個人面談を行い希望する業種・職種とその他の条件を聞き求人を紹介している。 学内に企業を呼び企業説明会を実施している。 合同企業説明会に参加を勧めており、求めている職種を直接聞いて企業選択、職種選択の参考にするように指導している。 インターネットの求人サイトを利用するように勧めている。 1年次から企業の人事の方に来校いただき就職試験（筆記試験、面接試験）に必要な知識と技術、マナーなどについて講演を行っていただいている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 就職試験時に提出する作品制作			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	4人	17.4%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、家庭の事情、病気・怪我		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席者には、本人と連絡を取り、欠席理由を確認し、欠席が続く場合は、面接等を実施し、学習意識向上させるために目標設定などの指導をしている。 出席状況がよくない学生は、保護者に連絡し報告と相談をしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	Webスペシャリスト科	—	平成19年2月28日 文部科学大臣告示第27号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3840 単位時間	1120 単位時間	620 単位時間	3240 単位時間		
			4980 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	13人	9人	6人	5人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																		
<p>（概要）</p> <p>教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。シラバスに従った授業方法で年間授業計画を立てている。</p>																		
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について</p> <p>GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPAの計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。</p>																		
学修支援等																		

<p>(概要)</p> <p>進路・就職指導、生活指導、学習指導を行っており、問題があれば個人面談を行い、対処している。場合によっては、保護者を交えて面談も行う。</p> <p>経済的な支援は、学内・学外の奨学金制度を利用している。</p> <p>健康管理については、全学生の健康診断を実施している。また、体調不良の学生については、病院へ行くように指導している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	2人 (50%)	2人 (50%)
(主な就職、業界等) IT系企業			
(就職指導内容) 個人面談を行い希望する業種・職種とその他の条件を聞き求人を紹介している。 学内に企業を呼び企業説明会を実施している。 合同企業説明会に参加を勧めており、求めている職種を直接聞いて企業選択、職種選択の参考にするように指導している。 インターネットの求人サイトを利用するように勧めている。 1年次から企業の人事の方に来校いただき就職試験（筆記試験、面接試験）に必要な知識と技術、マナーなどについて講演を行っていただいている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ベンダー資格、就職試験時に提出する作品制作			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席者には、本人と連絡を取り、欠席理由を確認し、欠席が続く場合は、面接等を実施し、学習意識向上させるために目標設定などの指導をしている。 出席状況がよくない学生は、保護者に連絡し報告と相談をしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ITスペシャリスト科	—	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	960 単位時間	550 単位時間	210 単位時間	260 単位時間		
			1020 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	30人	29人	1人	8人	9人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																		
<p>（概要） 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。 シラバスに従った授業方法で年間授業計画を立てている。</p>																		
成績評価の基準・方法																		
<p>（概要） 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ * 小数点第 2 位下四捨五入、* 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
卒業・進級の認定基準																		
<p>（概要） 設定科目の成績評価が 60 点以上であり、出席時数が総授業時数の 3 / 4 以上、各科目の出席時数が総授業時数の 2 / 3 以上で進級または、卒業することができる。</p>																		
学修支援等																		
<p>（概要） 進路・就職指導、生活指導、学習指導を行っており、問題があれば個人面談を行い、対処している。場合によっては、保護者を交えて面談も行う。 経済的な支援は、学内・学外の奨学金制度を利用している。</p>																		

健康管理については、全学生の健康診断を実施している。また、体調不良の学生については、病院へ行くように指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
30人 (100%)	24人 (80%)	1人 (3.3%)	5人 (16.7%)
（主な就職、業界等）			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個人面談を行い希望する業種・職種とその他の条件を聞き求人を紹介している。</p> <p>学内に企業を呼び企業説明会を実施している。</p> <p>合同企業説明会に参加を勧めており、求めている職種を直接聞いて企業選択、職種選択の参考にするように指導している。</p> <p>インターネットの求人サイトを利用するように勧めている。</p> <p>1年次から企業の人事の方に来校いただき就職試験（筆記試験、面接試験）に必要な知識と技術、マナーなどについて講演を行っていただいている。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、バンダー資格</p>			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>欠席者には、本人と連絡を取り、欠席理由を確認し、欠席が続く場合は、面接等を実施し、学習意識向上させるために目標設定などの指導をしている。</p> <p>出席状況がよくない学生は、保護者に連絡し報告と相談をしている。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報処理 システム 科	270,000 円	1,000,000 円	83,500 円	その他の内訳 (実習材料費、 学生厚生費)
デジタル クリエイ ター科	270,000 円	1,000,000 円	83,500 円	その他の内訳 (実習材料費、 学生厚生費)
Webス ペシャリ スト科	270,000 円	1,000,000 円	83,500 円	その他の内訳 (実習材料費、 学生厚生費)
ITスペ シャリス ト科	270,000 円	1,000,000 円	83,500 円	その他の内訳 (実習材料費、 学生厚生費)
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ncp.ac.jp/school/public_info.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、自己点検・自己評価を実施し、学校関係者評価委員会において、報告し改善を議論し、改善に努めることを基本方針にしている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
ウェブレイス	平成 26 年 4 月 1 日 ～令和 8 年 3 月 3 1 日 (任期更新)	企業等委員
合同会社 翔エンターテイメント	平成 26 年 4 月 1 日 ～令和 8 年 3 月 3 1 日 (任期更新)	企業等委員
株式会社アイ・ピー・エス	平成 26 年 4 月 1 日 ～令和 8 年 3 月 3 1 日 (任期更新)	企業等委員
有限会社 スタジオ・マックス	平成 26 年 4 月 1 日 ～令和 8 年 3 月 3 1 日 (任期更新)	企業等委員
なし	平成 26 年 4 月 1 日 ～令和 8 年 3 月 3 1 日 (任期更新)	元高等学校校長

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ncp.ac.jp/school/public_info.html
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ncp.ac.jp/school/public_info.html
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H127310001209
学校名 (〇〇大学等)	日本コンピュータ専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園等)	学校法人 瓶井学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		－ (0) 人	－ (0) 人	－ (0) 人
内 訳	第Ⅰ区分	－	－	
	(うち多子世帯)	(0) 人	(0) 人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	(うち多子世帯)	(0) 人	(0) 人	
	第Ⅲ区分	－	－	
	(うち多子世帯)	(0) 人	(0) 人	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	0 人	0 人	
	区分外 (多子世帯)	0 人	0 人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0 人 (0) 人
合計 (年間)				－

(備考)

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 <small>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）</small>	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人

「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	—	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人	前 半 期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準 に該当 (単位制によらない専門学校にあつて は、履修科目の単位時間数が警告の基 準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	—

出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。